

とだこやなぎいせき
戸田小柳遺跡

厚木市No.137

調査期間 2012年12月1日
～2014年8月31日

所在地 厚木市酒井・戸田

時代 近世、中世、奈良・平安、古墳、
弥生

調査原因 中日本高速道路株式会社による新
東名高速道路建設事業に伴う埋蔵
文化財発掘調査
東京電力株式会社による秦浜線No.
42～No.46 鉄塔移設工事に伴う埋
蔵文化財発掘調査

遺跡位置 厚木市南東部、小田急小田原線本
厚木駅から約3.6km南に位置し、相模川右岸の沖積微高地に立地する。



主な調査成果

平成26年度調査では弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の溝状遺構が見つっています。弥生時代・古墳時代の溝状遺構は形態的特徴から自然流路と考えられます。平成25年度調査と同様に、木製の杭が打ち込まれている箇所があり、自然流路に人の手を加えていた痕跡が確認されました。古墳時代の溝状遺構からは多量の土器が出土していますが、出土遺物の中でも注目されるのは、古墳時代の溝状遺構から出土した位至三公鏡（または双頭龍紋鏡）です。この鏡は青銅製で、中国で製作されたものです。中国後漢時代の終わりから三国、西晋の時期（2世紀後半から3世紀ごろ）にかけて制作されたものです。全国での出土例は破片資料などの可能性例を含めて、約40例あります。ただし、そのほとんどは西日本の墳丘墓や古墳からの出土であり、東日本での出土は数例しかありません。更に、お墓以外から出土している例はほとんどなく、出土状況についても希少な事例となっています。



F7号流路 銅鏡出土状況（中日本事業）



杭列検出状況（東電事業）